

補聴器・人工内耳の手入れについて

1	<p>補聴器本体を、ティッシュや布で拭く。細かいところ(特に電池室)は、綿棒で掃除する。</p> <p>人工内耳のスピーチプロセッサやマイクやコードなどは水分に弱いので軽く拭くだけにする。</p>	
2	<p>チューブやイヤモールドを拭く。イヤモールドの音の出口にホコリや耳垢がたまらないように、ブラシなどで掃除する。(音の出口を下に向けて優しく掃除する。)</p> <p>RIC補聴器の場合は、通気口や音口をきれいにする。</p>	
	<p>チューブやイヤモールドは水洗いもできる。ぬるま湯の中で優しく洗う。フックは、タンバー(網状の音響抵抗)があるときは洗わない。</p> <p>チューブやイヤモールドを水洗いしたら、きれいに水分を拭き取る。チューブ、イヤモールドの中にはこよりやエアブローで水分を取り除く。</p>	
3	<p>乾燥ケースの中に入れて、十分に乾燥させる。</p> <p>※ドライヤーなどの温風で乾かさないうで下さい。</p>	<p>電池は+面を下に向けて置いて下さい。</p> 

チューブに水滴がたまっているとき・・・

チューブの中に水滴がたまると補聴器から音がでません。

チューブを外して、振り払ったり、こよりで拭いたりして下さい。

防滴チューブにすることもオススメです。



チューブを外して 振り払うか、こよりで拭きます 防滴チューブも販売しています

汗対策について

対策① 拭き取る。

フック、イヤモールド、チューブを外し、ハンカチなどのやわらかい布で全体を拭きます。人工内耳の場合は、送信コイルの部分もしっかり拭き取りましょう。拭き取るのが難しい箇所には、エアブローや専用のブラシ、こよりを使って水分を吸い取ります。(詳しくは「補聴器・人工内耳の手入れ」をご覧ください。)

対策② 乾燥させる。

毎晩欠かさずに、乾燥ケースに入れるようにしましょう。乾燥しやすいように、電池ドアを開けておきましょう。また、電池は乾燥に弱いので、乾燥ケースには**電池を入れない**ように気をつけてください。乾燥剤が入っている乾燥ケースを使用しているご家庭は、乾燥剤が古くなっていないか(青→赤になったら交換サイン)も確認をお願いします。



電池は+面を下に向けて置きます。

乾燥剤も定期的に交換しましょう。



対策③ 汗カバーをする。

汗カバーを使用することで、汗が補聴器内部に侵入するのを防ぐことができます。しかし、汗カバーがぐっしょり濡れたまま使用すると、かえって故障の原因となりますので、濡れた時はこまめにカバーを交換するようにしましょう。値段も安価でインターネットからも注文できるようです。



上記の対策を参考に、しっかりとお手入れ・汗対策をお願いします。小学部は、全体自立活動などを通して、自分で補聴器の手入れができるよう指導しています。仕上げの確認を保護者の方で行うようにお願いします。幼稚部は、保護者の方が管理するのを見せたり、一緒に取り組んだりして下さい。